

語句説明

No.	語 句	説 明	ページ
-	5つの子ども像	1. 確かな学力を身につけた子ども 2. 学ぶ意欲、学ぶ習慣を身につけた子ども 3. コミュニケーション力と情報活用能力を身につけた子ども 4. 心豊かで思いやりのある子ども 5. 健康で元気な子ども	はじめに
(1)	「子育てステップ」シート	子どもの心豊かで健やかな成長を共有しながら、幼稚園と家庭が一緒になって幼児一人ひとりの発達に応じ、子どもの育ちを支えていくために活用するシートのこと。幼稚園教育要領に基づいて、基本的な生活習慣や社会生活を送る上で基本となる項目等も掲載している。	6
(2)	小中一貫教育推進委員会	校長会役員、教頭会代表、指導主事により構成。校長会課題別研修（6部会）と指導主事ワーキンググループ（6WG）の連携により、小中一貫教育の課題と今後の方向性、中学校区単位での推進について検討する委員会。	11
(3)	学校教育に関する有識者会議	学識経験者、校長会代表、指導主事により構成。学校教育に対する外部評価を行い、今後の方向性を検証し、施策に活かす会議。	11
(4)	ユニバーサルデザインの授業づくり	すべての人々にとって利用しやすい製品、建物、環境をデザインするという「ユニバーサルデザイン」の考え方を毎日の授業のなかに取り入れ、障がいのあるなしにかかわらず、だれにもわかりやすい授業を工夫すること。	11
(5)	ハートプログラム	能勢アウトドアスクールと寝屋川市教育委員会が共同開発している人間関係づくりのプログラム。米国の体験学習プログラムなどの技法をアレンジして組み立てており、一つひとつのゲームを通して、お互いを尊重すること、グループ内でのコミュニケーション、自主性・積極性・創造性を身につけることを学ぶ。	12
(6)	スクールソーシャルワーカー（SSW）	社会福祉の専門的知識を所持し、社会福祉の理念に基づいて、子どもたちの問題に生活の視点で関わる専門職。スクールカウンセラー（SC）が主に個人の内面に焦点を当てるのに対して、スクールソーシャルワーカー（SSW）は、生活の視点で子どもに関わるすべての背景や状況を視野に入れて判断し、必要に応じて関係機関と調整・連携を進めながら、子どもを取り巻く環境の改善を図る。	12
(7)	中学生サミット	各中学校の生徒会執行部員が生徒会活動や日々の学校生活について情報交換することを通して、各中学校の活性化をめざすとともに、これからの中学生のあるべき姿について考える場として、各中学校の生徒会顧問が中心となって、生徒の意見を取り上げながら企画運営を行っている。（平成19年8月設置）	13

No.	語句	説明	ページ
(8)	学校インターンシップ	主として教職を希望する大学生・大学院生が広く社会経験を積むために、ある期間、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校などの教育現場に入り、学校現場における諸活動（授業補助・課外活動・行事・事務など）の実務経験をする事。	16
(9)	学習到達度調査	小学2年生から5年生を対象に、国語と算数、中学1年生、2年生を対象に、国語、数学、英語、中学3年生を対象に、英語について、学習指導要領に定められている学習内容の定着度を、すべての児童生徒について測る市独自の調査のこと。平成15年度より実施している。この調査結果をもとに、各学校における児童・生徒一人ひとりの学習指導方法の工夫改善に資するために実施している。	16
(10)	全国学力・学習状況調査	文部科学省が、小学6年生と中学3年生を対象に、平成19年度から実施している調査。学力調査と学校質問紙調査、児童生徒質問紙調査からなる。平成22年度より調査対象校は、抽出方式となったが、対象外となった学校については、学校設置管理者の希望により調査を利用することができる。	17
(11)	ブロンズ・シルバー・ゴールド受検	児童英検は、英語に親しみ、外国の文化を理解することを目標とした児童向けのリスニングテストであり、「ブロンズ」「シルバー」「ゴールド」の3段階がある。受検の目安は、小学校の英語活動（50分のレッスンを週1回受けている場合）で言えば、「ブロンズ」1年半～2年、「シルバー」2年半～3年半、「ゴールド」4年～5年以上程度とされる。	19
(12)	ICT活用指導力調査（文部科学省）	文部科学省が教育の情報化の目標達成状況（校内LAN整備率、教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数、コンピュータを使って指導できる教員の割合等）を把握するために、平成18年度から実施している調査。	20
(13)	評価・育成システム	大阪府内の全教職員を対象に、教職員の意欲・資質能力の向上、教育活動の充実及び学校の活性化に資することを目的として、平成16年度から実施。平成19年度から評価結果を給与に反映している。	25
(14)	Is値	建物の耐震性能を表わす指標。地震に対する建物の強度、靱性（変形能力、粘り強さ）が大きいほどこのIs値も大きくなり、耐震性能が高くなる。 文部科学省では、公立学校施設の耐震改修の補助要件、地震時の児童生徒の安全性、被災直後の避難場所としての機能性から補強後のIs値がおおむね0.7を越えることとしている。	32
(15)	まちのせんせい	生涯学習ボランティアとして、自らの技術・技能・知識を活かし、養成講習会の修了者を「まちのせんせい」として認定し、依頼に応じて人材を派遣する制度。	39

No.	語 句	説 明	ページ
(16)	指定管理者制度	地方自治法改正に伴い、公の施設に民間の活力を導入し、効果的効率的な管理運営による住民サービスの向上と経費縮減を図るための制度。	44
(17)	K-ON High School Live	近隣高等学校の軽音楽クラブと連携して行ったコンサートイベント。	44
(18)	デイジー図書	CD-ROMに世界の点字図書館で合意したフォーマットによって、音声情報を記録しているもの。デジタル録音図書の国際基準の頭文字をとってデイジー図書と呼んでいる。	49
(19)	地域教育協議会	学校・家庭・地域が協働して教育コミュニティづくりを進め、人間関係を築く中で「地域の子どもは地域で育てる」という機運を醸成し、地域が一体となって子どもの健全育成を図っていく目的で、平成12年度に市内12学校区に設立されている組織。	53
(20)	学校支援地域本部事業	学校を支援するため、学校が必要とする活動について地域の方々をボランティアとして派遣する組織で、これまでも各学校で行ってきた地域のボランティアの協力を得ながら学校運営や教育活動の取組をさらに広げる事業。	53
(21)	地域教育コミュニティ	教育や子育てに関する課題を学校、家庭、地域の団体・グループ等が共有し、課題解決に向け協働の取組みを通じた人のつながり。	53
(22)	放課後子ども教室	小学校の校庭や体育館等の学校施設を活用して、放課後や週末等に、安全で安心な子どもの居場所（活動拠点）を設け、地域のボランティアの方々の参画・協力を得て、学習やスポーツ・文化活動等さまざまな体験を子どもたちに提供する事業。	54
(23)	まなび舎事業・まなび舎キッズ	放課後子ども教室の中に位置づけられており、子どもの学力向上と学習習慣の定着を図ることを目的として、宿題・国語・算数の学習を支援する事業。	55
(24)	寝屋川リーダーズセミナー小学生クラブ	小学4・5・6年生を対象に、校区を越えた異年齢の交流を行い、仲間づくりを基調として健全な子どものあるべき姿を実現するセミナー。	55
(25)	寝屋川リーダーズセミナー中高生クラブ	中・高校生を対象に、自然体験や社会活動を通じて次世代を担うリーダー養成のためのセミナー。	55

No.	語 句	説 明	ページ
(26)	オーパス・スポーツ施設情報システム	大阪府と14市1町が共同で開発・運用している公共スポーツ施設の予約・案内が可能で、登録手続きをすればインターネット、電話、街頭端末機で市民体育館などスポーツ施設の空き状況を検索したり、予約ができるシステム。	75
(27)	総合型地域スポーツクラブ	年齢や性別等にとらわれず、多世代の地域住民が多種目のスポーツに良質な指導者の下で楽しむことができるスポーツクラブのことであり、平成22年度までに少なくとも一つは市町村に設立することを文部科学省がスポーツ振興基本計画で提唱している。	75
(28)	スポーツリーダーズバンク	スポーツ活動普及のために、スポーツインストラクター養成講習会修了者を登録し、依頼に応じて人材を派遣する制度。	80